

企画部会 意見書

委員 齋藤一志

7月24日開催の企画部会への参加が出来ませんので、意見書を提出させていただきます。
目標・KPIの設定値また、2025年度の確認した数値に対して異論ございません。

- (1) 人 : 2025年度は、コメ価格の暴騰を受け農業現場に若い人が大勢就農いたしましたが、今後のコメ暴落で一気に離農が進むと思われます。
- (2) 農地 : 都市近隣農地の大規模転用の許可が県知事認可から、市町村長の認可に変わったことから、各地で優良農地の宅地化の話が多くあります。大規模な法人にあっては、「農地の貸しはがし」ともいえる事例が散見され法人経営上の問題になってきています。
- (3) 技術 : スマート農業機器の発達によりある程度のコストダウンが出来ましたが、農機具の大幅値上げにより、今後の生産原価は上がるものと思います。
- (4) 生産資材 : コロナ感染症に続き、各地で戦争が始まり、海外から輸入している肥料については、価格が安定していた時の3倍になっています。農薬関係については、ドローン対応の農薬登録が進み現場作業が劇的に変わりました。高く評価できると思います。飼料について、世界的穀物在庫量が減少局面に入り、肥料高でトウモロコシの栽培が減少する事態に更に円安が進み飼料代が高騰すると思われます。建築価格も高騰している中、畜産経営が維持できるか心配です。
- (5) 付加価値の向上 : 「みえるらべる」の仕組みを一般の消費者は知らないなので、広く取り組みを発信して買っていただく事が環境負荷低減につながると思います。